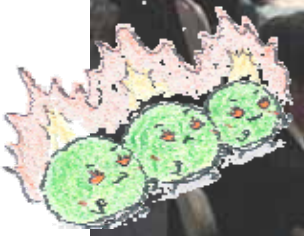
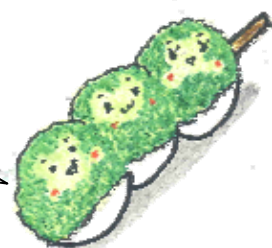


ず ん だ も ち

21・老福連
第11回職員研究
交流集会実行委員会
広報担当 発行
<速報2号>

「あ～りが～たや
あ～りが～たや」



～開会の言葉～
今回は絆を深め合いまし
ようと横山雄治事務局長。



～オープニング セレモニー～
集会開始前には、じゅん&じゅんの歌「少
しの勇気」で歓迎。手拍子で会場が包まれました。

いよいよ、第11回職員研究交流集会が始まり
ました！！
本日の来場者は、375名となりました。
開会後には、東日本大震災で犠牲になられた
方々に黙とうを行いました。





21・老福連からの基調報告

震災支援にと物心両面と人材支援に本当に感謝するとともに、関東と関西の協力のもとでこうして山形での集会が開催することができた。また、来年の介護保険改定についてのお話があり、すべての人が安心して豊かに老いることができるよう公的介護保障制度を築いていこうと話された



講師：廣末 利弥 氏
(21・老福連 代表幹事)

記念講演



講師：石飛 幸三 氏
(特養「芦花ホーム」常勤医師)

「命の尊厳 平穩死とは何か」をテーマにお話いただきました。看取りは入所した時から始まっている。どう支えてきたか、どう見てきたか、が大切。「死期が来た」とどうしてわかるのか。死期は自然に任せるものであり、私たちが決めるものではない。

看護師だからとっても興味がそられました。看取りの原点を考えさせられた。
(福島/看護職 /40代)

特別報告



講師：小野 ともみ 氏
(宮城野の里 施設長)

東日本大震災を乗り越えて、また21老福連などのネットワークでの支援による取り組みを通して見えてきた、地域における社会福祉法人としての果たすべき役割、そして介護保険制度が持つ矛盾と国・自治体の責任について、震災当時の状況を振り返りながらお話いただきました。

参加者の声



昨年に続き、2回目の参加です。他の取り組みや悩みを聞くことで、何かを得て帰りたいです。
(岐阜/介護職/20代)

初めての参加。石飛先生の講演を楽しみに来ました。全国の方の話の聞いたり交流して視野を広げたい。
(山形/介護職/
20代・40代・50代)

あまりに楽しみで参加券全員分忘れてしまいました。お酒と珍味は持ってきたのに。アハハ
(福島/介護職/20代)